

教学マネジメント特別委員会における検討の目的等（案）

1. 検討の目的

- 「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」においては、大学における教育の質を保証するための取組は不十分な状況があり、学位を与える課程全体としてのカリキュラム全体の構成や、学修者の知的習熟過程等を考慮・把握することなく、単に個々の教員が教えたい内容が授業として提供され、教育課程内の位置付けや水準などを含めて体系的なカリキュラムが意識されていないという課題が指摘されている。
- こうした課題を背景として、答申は保証すべき高等教育の質について、何を学び、身に付けることができるのかが明確になっているか、学んでいる学生は成長しているのか、学修の成果が出ているのか、大学の個性を発揮できる多様で魅力的な教員組織・教育課程があるのかといった要素が重要になると指摘している。
- 言い換えれば、学生が「何を学び、身に付けることができるのか」を中軸に据えた学修者本位の教育への転換を図るべきこととされている。この転換を実現するためには、アクティブ・ラーニングの活用や授業科目の精選等を通じて、密度のある主体的な学修を提供できる環境を整えると共に、学修成果の可視化等を通じて学生自身も学修の成果を実感できるような仕組みを提供する必要があるものと考えられる。
- また、上記の転換に加え、専攻分野についての専門性を有するだけでなく、基礎的で普遍的な知識・理解、汎用的な技能等を中核とする能力を有する人材を育成することは、予測不可能な時代における社会からの要望に応えることになるものと考えられる。
- 以上を踏まえ、本委員会としては、教学マネジメントに係る指針の策定及び学修成果の可視化と情報公開の在り方の審議を通じて、社会への説明責任を果たしつつ、学修者本位の教育への転換を目指す教学マネジメントの確立を図ることを目的としてはどうか。

2. 検討の視点

○ 教学マネジメントに係る指針の策定の検討に当たっては、

- ・ 教学マネジメントは大学が自らの責任の下、各大学の事情に合致した形で構築すべきものであること
- ・ 教学マネジメントに係る指針は特定の取組を大学に強制するものではないこと

に留意しつつ、以下に示すような取組や方法論について、それぞれが学修者本位の教育の質の向上の観点からどのような効果を有するか、その導入・実施に当たって大きな視点から留意すべき点などを整理することで、各大学における自主的な教学マネジメントの確立に資するための指針の策定を目指すこととしてはどうか。

【参考】教学マネジメントに係る指針に盛り込むべき事項の例

- ・ プログラムとしての学士課程教育と三つの方針の策定、全学的な教学マネジメントの確立について
- ・ カリキュラム編成の高度化（ナンバリングや履修系統図の活用、編成における外部人材の参画等）、アクティブ・ラーニングやICTを活用した教育の促進
- ・ 柔軟な学事暦の活用、主専攻・副専攻の活用、履修単位の上限設定（CAP制）の適切な運用、履修指導体制の確立、シラバスにおいて標準的に期待される記載事項の提示、成績評価基準の適切な運用、学生個人の学修成果の把握、学修時間の確保と把握、学生による授業評価
- ・ FD（ファカルティ・ディベロップメント）の高度化、SD（スタッフ・ディベロップメント）の高度化
- ・ 教学IR体制の確立
- ・ 情報公表の項目や内容等に係る解説 等

○ また、学修成果の可視化と情報公表の促進に関する検討に当たっては、以下に示すような情報について、その把握・測定がどのように教学マネジメントの確立に資するのかや、各大学の外部に対する説明責任の観点からはどのような公表の在り方が望ましいか、という観点から整理することとしてはどうか。

【参考①】把握・公表の義務付けが考えられる情報の例

（学修成果・教育成果の可視化に関する情報）

- ・ 単位の取得状況、学位の取得状況、進路の決定状況等の卒業後の状況（進学率や就職率など）、学修時間、学生の成長実感・満足度、学生の学修に対する意欲 等

（大学教育の質に関する情報）

- ・ 入学者選抜の状況、修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年率、中途退学率、教員一人当たりの学生数、学事暦の柔軟化の状況、履修単位の登録上限設定の状況、授業の方法や内容・授業計画（シラバスの内容）、早期卒業や大学院への飛び入学の状況、FD・SDの実施状況 等

【参考②】把握や活用、公表の在り方について一定の指針を示すことが考えられる情報の例

（学修成果・教育成果の可視化に関する情報）

- ・ アセスメントテストの結果、TOEICやTOEFL等の学外試験のスコア、資格取得や受賞、表彰歴等の状況、卒業論文・卒業研究の水準、留学率、卒業生に対する評価 等

（大学教育の質に関する情報）

- ・ ナンバリングの実施状況、履修系統図の活用状況、GPAの活用状況、IRの整備状況、教員の業績評価の状況 等